



mLAN Driver/mLAN Tools

インストールガイド

ソフトウェアのご使用条件

弊社では本ソフトウェアのお客様によるご使用およびお客様へのアフターサービスについて、<ソフトウェア使用許諾契約>を設けさせていただいているため、お客様が下記条項にご同意いただいた場合にのみご使用いただけます。

本ソフトウェアのダウンロード、インストール、コピー、その他のご使用をされた場合には下記条項にご同意いただけたものとさせていただきますので、下記条項を充分お読みください。ご同意いただけない場合は、ダウンロード、インストール、コピー、その他のご使用をおやめください。すでにダウンロードやインストールをしたが、下記条項にご同意いただけないという場合には、速やかに本ソフトウェアを削除してください。

ソフトウェア使用許諾契約

1. 著作権および使用許諾

弊社はお客様に対し、ソフトウェアプログラムおよびデータファイル(以下「本ソフトウェア」といいます。)を使用する権利を許諾します。本契約条項は、今後お客様に一定の条件付きで配布され得る本ソフトウェアのバージョンアッププログラム、データファイルにも適用されるものとします。本ソフトウェアの権利およびその著作権は、弊社または弊社のライセンサーが有します。本ソフトウェアの使用によって作成されたデータの権利はお客様が取得しますが、本ソフトウェアは、関連する著作権法規のもとで保護されています。

- お客様ご自身が一時に一台のコンピューターにおいてのみ使用することができます。
- バックアップが許されているものは、バックアップをとる目的でのみ、機械で読み取れる形式での本ソフトウェアのコピーを作成することができます。ただし、そのバックアップコピーには本ソフトウェアに表示されている弊社の著作権の表示や他の権利帰属についての説明文もコピーしてください。
- お客様は、本ソフトウェアを使用する権利を第三者に譲渡することができますが、それは、お客様が本ソフトウェアのコピーを保持せず、かつ譲受人が本契約条項に同意する場合に限られます。

2. 使用制限

(1) 本ソフトウェアの使用にあたっては、次のことを遵守してください。

- 本ソフトウェアには著作権があり、その保護のため、お客様が本ソフトウェアを逆コンパイル、逆アセンブル、リバース・エンジニアリング、またはその他のいかなる方法によっても、人間が感得できる形にすることは許されません。
- 本ソフトウェアの全体または一部を複製、修正、改変、貸貸、リース、頒布または本ソフトウェアの内容に基づいて二次的著作物をつくることは許されません。
- 本ソフトウェアをネットワークを通して別のコンピューターに伝送したり、ネットワークで他のコンピューターと共有することは許されません。
- 本ソフトウェアを使用して、違法なデータや公序良俗に反するデータを配信することは許されません。
- 弊社の許可無く本ソフトウェアの使用を前提としたサービスを立ち上げることは許されません。

(2) 楽曲用MIDIデータ等、本ソフトウェアにより使用または入手できる著作権曲については次のことを遵守してください。

- 本ソフトウェアの使用によって得られたデータを著作権者の許可なく営業目的で使用することは許されません。
- 本ソフトウェアの使用によって得られたデータを著作権者の許可なく複製、転送または配信したり、または不特定多数に向けて再生および演奏することは許されません。
- 本ソフトウェアの使用によって入手できるデータの暗号を著作権者の許可無く解除したり、電子透かしを改変したりすることは許されません。

3. 終了

本契約はお客様が本ソフトウェアをお受け取りになった日に発効します。本契約は、お客様が著作権法または本契約条項に1つでも違反されたときは、弊社からの終了通知がなくても自動的に終了するものとします。その場合には、ただちに本ソフトウェアとそれに関するドキュメンテーション、およびそれらのコピーをすべて廃棄しなければなりません。

4. 本ソフトウェアに関する保証

本ソフトウェアのご使用についての一切のリスクはお客様のご負担となります。

本ソフトウェアの商品性、特定の目的への適合性、第三者の権利を侵害しないことの保証は明示であると默示であるとを問わず、一切いたしません。特にお客様の目的に適合することや、ソフトウェアの操作が中断されないことやソフトウェアの欠陥や瑕疵が修正されることの保証はいたしません。

5. 責任の制限

弊社の義務は、お客様に本契約条項の条件で本ソフトウェアの使用を許諾することがすべてです。

弊社は、本ソフトウェアの使用、誤用またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害（データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む）については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生の可能性について予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。すべての損害、損失、契約や違法行為等に対する訴訟申立てについて、いかなる場合も、お客様に対する弊社の責任は、お客様が本ソフトウェアの購入のために支払った金額を越えることはありません。

6. 第三者のソフトウェア

弊社は、本ソフトウェアとともに、第三者のプログラム、データファイルおよびそれに関するドキュメンテーション（以下「第三者ソフトウェア」といいます）を提供する場合があります。別の規定に従い取り扱われるべき旨の記載が、本ソフトウェア付随のマニュアルに記載されている場合には、本契約条項にかかわらず、その別の規定に従い取り扱われるものとし、弊社によるアフターサービスおよび保証などについては、以下の規定が適用されるものとします。

- ・弊社は、第三者ソフトウェアに関しての操作方法、瑕疵その他に関してアフターサービスを提供するものではありません。
- ・弊社は、明示であると默示であるとを問わず、第三者ソフトウェアの商品性、および特定目的に対する適合性の保証その他一切の保証をいたしません。第三者ソフトウェアの使用もしくは機能から生じるすべての危険は、お客様の負担となります。
- ・弊社は、第三者ソフトウェアの使用、誤用、またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付隨的または間接的損害（データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む）については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生があることについて予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。

7. 一般事項

本契約条項は、弊社の権限ある者の署名のある書面によらない限り、改訂することはできません。

本契約条項は、日本法の適用を受け、日本法に基づいて解釈されるものとします。本契約に関し紛争が生じた場合には東京地方裁判所を専属管轄裁判所とします。

ご注意

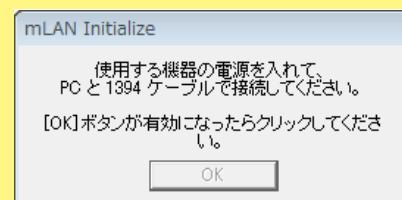
- ・このソフトウェアおよびインストールガイドの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- ・巻頭にこのソフトウェアのご使用条件が記載されています。このソフトウェアをインストールする前に、必ずこのご使用条件をお読みください。
- ・このソフトウェアおよびインストールガイドの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・このソフトウェアおよびインストールガイドを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・アプリケーションのバージョンアップなどに伴うシステムソフトウェアおよび一部の機能や仕様の変更については、下記URLをご参照ください。
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm/>
- ・このインストールガイドに掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどの配慮をお願いします。
- ・Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

インストールの途中でコンピューターの画面に以下のメッセージが表示されるまで、mLAN機器の電源を入れないでください。

Windows XPの場合



Windows Vistaの場合



mLAN Driver/mLAN Toolsとは

このmLAN Driver/mLAN Toolsは、O1X/i88X/mLAN16E/mLAN16E2/MY16-mLAN/n8/n12を、コンピューターとIEEE1394(mLAN)ケーブルでつないでお使いいただくためのプログラムです。本ソフトウェアは以下のドライバーソフトおよびアプリケーションから構成されています。

mLAN Bus Driver

O1X Driver

i88X Driver

mLAN16E Driver

MY16-mLAN Driver

n8/n12/mLAN16E2 Driver

mLAN Connection Manager for n8/n12/mLAN16E2

mLAN Auto Connector for O1X/i88X/mLAN16E/
MY16-mLAN

mLAN Graphic Patchbay

mLAN Manager



- MOTIF XS8には、mLAN16E2が内蔵されています。

mLANを使用するには、mLAN機器の仮想的なオーディオ/MIDI端子の接続や、各mLAN機器の同期などの設定を行なう必要があります。

本インストールガイドでは、これらを設定することを、「mLAN接続する」と呼びます。

mLAN接続は、mLAN Auto Connector、またはmLAN Graphic Patchbayで設定します。

n8、n12、またはmLAN16E2をご使用の場合は、mLAN Connection Managerが自動的にmLAN接続を設定します。mLAN Connection Managerが設定したmLAN接続は、mLAN Graphic Patchbayで変更できます。

動作環境

mLAN Driver/mLAN Toolsをお使いいただくには、以下のコンピューター環境が必要です。



- お使いのOSによっては、下記の仕様以上の条件を満たす必要があります。
- 各社DAWの動作環境については、それぞれの取扱説明書をご参照ください。
- mLAN Driver/mLAN Toolsの最新バージョン、動作環境、および64bit版OS対応については、下記URLに最新情報が掲載されています。
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm>

OS	: Windows XP Professional SP2以降/XP Home Edition SP2以降/Vista(32ビット版)
コンピューター	: Intel Core/Pentium/Celeronファミリーのプロセッサーを搭載したコンピューター S400(転送スピード400Mbps)のIEEE 1394(FireWire)端子またはi.LINK端子を搭載したもの(*1)
ハードディスク	: 110MB以上の空き容量、高速なハードディスク

Windows XP Professional SP2以降/XP Home Edition SP2以降

- 推奨動作環境(*2)
 - コンピューターとmLAN機器を1対1で接続する場合
CPU : Intel Core 2 Duo 1.66GHz以上
メモリー : 512MB以上
 - コンピューターと3台のmLAN機器を接続する場合
CPU : Intel Core 2 Duo 1.66GHz以上
メモリー : 512MB以上

- 最低動作環境(*2)
 - CPU : Intel Pentium 1.4GHzまたはIntel Celeron 1.7GHz以上
メモリー : 512MB以上

Windows Vista (32ビット版)

- 推奨動作環境(*2)
 - コンピューターとmLAN機器を1対1で接続する場合
CPU : Intel Core 2 Duo 1.8GHz以上
メモリー : 1GB以上
 - コンピューターと3台のmLAN機器を接続する場合
CPU : Intel Core 2 Duo 1.8GHz以上
メモリー : 1GB以上
- 最低動作環境(*2)
 - CPU : Intel Pentium 1.4GHz またはIntel Celeron 1.7GHz以上
メモリー : 512MB以上

*1 IEEE 1394(FireWireやi.LINKなど)端子を搭載したコンピューターが必要です。搭載していない場合は、PCまたはPCIカードなどを別途ご用意ください。
詳細な動作環境や推奨のPC、PCIカードについては
<http://www.yamaha.co.jp/product/syndtm>
をご覧ください。

*2 前記推奨／最低動作環境は標準的なDAWにて、次ページのオーディオ/MIDIを再生しながら、ソフトエフェクトなどを使用した場合です。お使いのDAWにより異なる場合があります。

<推奨動作環境(コンピューターとmLAN機器を1対1で接続する場合)>

Fs=44.1kHz / 24bit

Audio Driver 各mLAN機器の全In/Outに接続

MIDI Driver 各mLAN機器の全In/Outに接続

Audio x 16トラック再生

Audio x 1トラック録音

MIDI x 18トラック再生

MIDI Remote Control / Automation

Send Plug-in Soft Effect 3系統

Insert Plug-in Soft Effect 9系統

Plug-in Soft Synthesizer 2系統

Latency 6msec程度

<最低動作環境>

Fs=44.1KHz / 24bit

Audio Driver 各mLAN機器の全In/Outに接続

MIDI Driver 各mLAN機器の全In/Outに接続

Audio x 15トラック再生

MIDI Remote Control / Automation

Send Plug-in Soft Effect 3系統

Insert Plug-in Soft Effect 9系統

Plug-in Soft Synthesizer なし

Latency 50msec程度



- ・ノートPCをご使用の場合、ノートPCの制約により、内蔵IEEE 1394が使用できないことがあります。このようなときは、PCカードを別途ご用意ください。

<推奨動作環境(コンピューターと3台のmLAN機器を接続する場合)>

Fs=44.1kHz / 24bit

Audio Driver 32 In/32 Out(合計)

MIDI Driver 5 In/5 Out(合計)

Audio x 16トラック再生

Audio x 1トラック録音

MIDI x 18トラック再生

MIDI Remote Control / Automation

Send Plug-in Soft Effect 3系統

Insert Plug-in Soft Effect 9系統

Plug-in Soft Synthesizer 2系統

Latency 6msec程度

本書の構成

ソフトウェアのインストール(5ページ)

はじめてmLAN Driver/mLAN Toolsをインストールする方法を説明します。

mLAN Auto Connectorによる設定 (16ページ)

mLAN Auto Connectorを使って、コンピューターと01X,i88X,mLAN16E、またはMY16-mLANを1対1でmLAN接続する方法を説明します。

本体のバージョンアップ(01X、i88X、mLAN16Eの場合のみ) (23ページ)

01X,i88X,mLAN16E本体のバージョンアップが必要な場合があります。そのバージョンアップ方法について説明します。

ソフトウェアのアンインストール(24ページ)

mLAN Driver/mLAN Toolsをアンインストールする方法を説明します。

ソフトウェアのアップデート(25ページ)

すでに古いバージョンのmLAN Driver/mLAN Toolsをお使いの場合、新しいバージョンにアップデートする方法を説明します。またn DriverまたはAI Driverをお使いの場合は、mLAN Driver/mLAN Toolsに変更する方法を説明します。

トラブルシューティング(困ったときは…)(27ページ)

mLAN機器を、IEEE1394(mLAN)ケーブルを使ってコンピューターと接続して上手く機能しないときに、まず行なっていただきたい対処方法を説明します。ヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談になる前にお読みください。

ソフトウェアのインストール

! mLAN Driver/mLAN Toolsをインストール/アンインストールするときに、ノイズが発生することがあります。これらの操作を行なう前に、各機器の出力を下げてください。

すでにmLAN Driver/mLAN Tools、n Driver、またはAI Driverがコンピューターにインストールされている場合

インストールされているソフトウェアをアンインストールする必要があります。mLAN Driver/mLAN Toolsのインストールの途中で、ソフトウェアのメンテナンス画面が表示されますので、画面の指示に従ってソフトウェアを削除してください。その後、mLAN Driver/mLAN Toolsのインストールが再開されます。詳しい削除方法については[24ページ](#)をご覧ください。

mLAN Driver/mLAN Toolsは、mLAN Tools 2.0とmLAN Applications for Yamahaの2つのソフトウェアで構成されています。mLAN Tools 2.0は、mLAN機器とコンピューターを接続するためのドライバーなどを含むソフトウェアです。

mLAN Applications for Yamahaは、コンピューターとmLAN機器の間でオーディオ/MIDI信号をIEEE1394(mLAN)ケーブルを通じてやりとりするためのソフトウェアです。

これらのソフトウェアで、01X,i88X,mLAN16E,mLAN16E2,MY16-mLAN,n8,n12をコンピューターにmLAN接続することができます。

次の手順でインストールします。



- エラーメッセージが表示されたときは、[27ページ](#)をご参照ください。

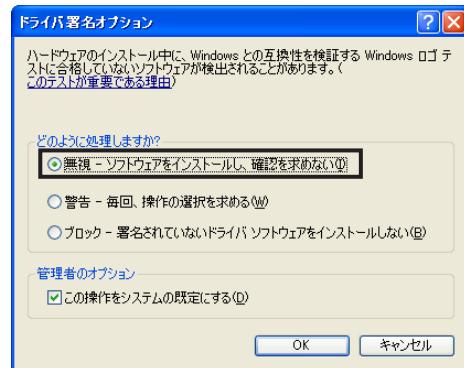
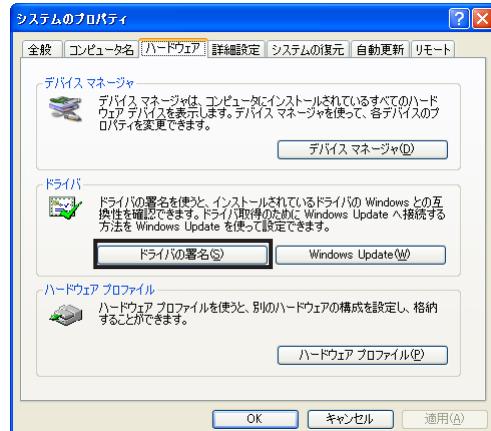
■Windows XPの場合

インストール前の準備

- 1 mLAN機器の電源が切れているのを確認します。
- 2 mLAN機器のMIDI IN/OUT端子に接続されているMIDI機器の接続ケーブルをすべて外しておきます。
- 3 mLAN機器をコンピューターのIEEE 1394(FireWire/i.LINK)端子にハブを使わず直接つなぎ、mLAN機器以外のIEEE 1394機器は、コンピューターから外します。
- 4 コンピューターを起動して、管理者権限のあるアカウントでログオンします。
- 5 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックします。コントロールパネルが次のような表示のときは、画面左上の「クラシック表示に切り替える」をクリックします。
すべてのコントロールパネルとアイコンが表示されます。



- 6 [システム]→[ハードウェア]→[ドライバーの署名]→[ドライバー署名オプション]で「無視一ソフトウェアをインストールし、確認を求める(!)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[OK]をクリックします。



- 7 ([システム]→[ハードウェア]→)[デバイスマネージャ]の「1394バスホストコントローラ」に「!」や「×」マークがついていないことを確認します。
「!」や「×」マークがついている場合は、IEEE 1394 (FireWire/i.Link)が使用できない設定になっています。詳細については、お使いのコンピューターの取扱説明書をご参照ください。
- 8 デバイスマネージャ画面右上の「×」をクリックし、さらにシステムのプロパティ画面の[OK]をクリックしてから、コントロールパネル画面右上の「×」をクリックして、各画面を閉じます。
- 9 アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。

インストーラーの起動

インストーラーは、以下の2つのソフトウェアのインストールを行ないます。

- ・ mLAN Tools 2.0
- ・ mLAN Applications for Yamaha

NOTE

- ・ インストールの中止には、必ずキャンセルボタンやクローズボタンを使用してください。[Ctrl]+[Alt]+[Delete]を使用して中止したり、インストールの途中で電源をオフにしたりすると、アンインストールが正常にできなくなる原因となります。

10 ダウンロードした圧縮ファイルの解凍先にある「setup.exe」をダブルクリックします。

NOTE

- すでにmLAN Driver/mLAN Tools、n DriverまたはAI Driverがインストールされている場合は、メンテナンス画面が表示されます。画面の指示に従って、ソフトウェアの更新(インストールされているソフトウェアの削除と新しいソフトウェアのインストール)を行なってください。ソフトウェアの削除方法については、[24ページ](#)をご参照ください。

11 いくつか確認のメッセージが表示されますので、問題なければ[OK]をクリックし、ダイアログを閉じます。 インストールの準備が終わると、「ようこそ」という画面が表示されます。



mLAN Tools 2.0のインストール

12 [次へ]をクリックします。

mLAN Toolsのインストール開始画面が表示されます。

13 [次へ]をクリックします。

「インストール先の選択」画面が表示されます。

14 mLAN Toolsをインストールするドライブとフォルダ名を確認/選択し、決定したら[次へ]をクリックします。

自動的にインストール先が選択されています。インストールするドライブとフォルダ名を変えたい場合は、[参照]をクリックしてインストール先のフォルダーを選択してください(ドライブ: ¥フォルダ名)。

NOTE

- ・ 通常はインストール先を変更する必要はありません。

15 ドライブとフォルダ名を確認して、[次へ]をクリックします。

インストールが開始されます。

NOTE

- ・ インストール中、「ロゴテストに合格していません」というメッセージが表示された場合は、「続行」をクリックします。インストールを中止する必要はありません(この先の手順でも同様です)。メッセージが表示されない場合はそのまま次の手順に進みます。

16 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。 [完了]をクリックします。

mLAN Applications for Yamahaのインストール

mLAN Tools 2.0のインストールが終わると、mLAN Applications for Yamahaのインストール開始画面が表示されます。

17 [次へ]をクリックします。

「インストール先の選択」画面が表示されます。

18 mLAN Application for Yamahaをインストールするドライブとフォルダ名を決めます。

自動的にインストール先が選択されています。インストールするドライブとフォルダ名を変えたい場合は、[参照]をクリックしてインストール先のフォルダーを選択してください(ドライブ: ¥フォルダ名)。

NOTE

- ・ 通常はインストール先を変更する必要はありません。

19 ドライブとフォルダ名を確認して、[次へ]をクリックします。 インストールが開始されます。

20 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。

「はい、今すぐコンピューターを再起動します。」の左側のラジオボタンにチェックが入っていることを確認し、[完了]をクリックしてコンピューターを再起動します。

インストールを途中で終了した場合について

インストールを途中で終了した場合、ソフトウェアが不完全な状態で、インストールされている可能性があります。正しくソフトウェアをインストールするには、もう一度手順10からやりなおして、インストールを行なってください。

mLAN ドライバーの初期設定

コンピューターが再起動したら、mLAN ドライバーの初期設定を行ないます。

21 機器の電源を入れるよう求めるダイアログが画面左上に表示されます。mLAN機器をコンピューターに接続して電源を入れます。

「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。

NOTE

- Windows Updateに接続するかどうかを選択する画面が表示されることがあります。この場合は「いいえ、今回は接続しません」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。

22 「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。

23 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。

[完了]をクリックし、手順**21**で画面左上に表示された機器の電源を入れるように求めるダイアログの[OK]をクリックします。

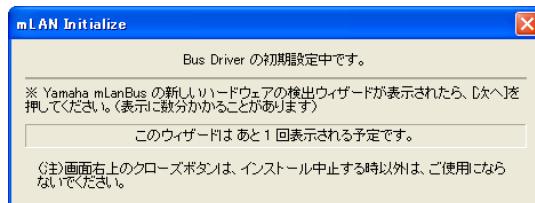
24 画面左上に「ドライバーの初期設定を行ないます」というダイアログが表示されます。

[OK]をクリックします。

NOTE

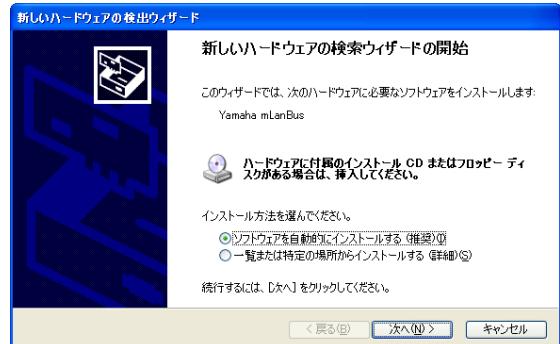
- 手順 **25-26**と手順 **28-29**の間、それぞれのドライバーの初期設定中であることを示すウィンドウが画面左上に表示されます。このウィンドウでは、それぞれの手順で「新しいハードウェアの検出ウィザード」があと何回表示されるかを示します。インストールを中止するとき以外は、このウィンドウを閉じないでください。

例)



Bus ドライバーの初期設定

25 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。



NOTE

- Windows Updateに接続するかどうかを選択する画面が表示されることがあります。この場合は「いいえ、今回は接続しません」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。

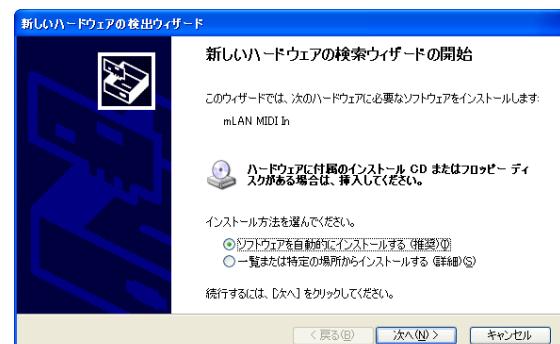
26 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。

[完了]をクリックします。

27 Bus ドライバーの初期設定中であることを示す画面左上のウィンドウが消えるまで、**25-26**の手順を繰り返します。

Audio/MIDI ドライバーの初期設定

28 「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。「ソフトウェアを自動的にインストールする(推奨)」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。



NOTE

- Windows Updateに接続するかどうかを選択する画面が表示されることがあります。この場合は「いいえ、今回は接続しません」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ] をクリックします。

29 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。
[完了]をクリックします。

30 Audio/MIDI ドライバーの初期設定中であることを示す画面左上のウィンドウが消えるまで、**28-29**の手順を繰り返します。

mLAN接続の設定

31 mLAN ドライバーが起動します。n8、n12またはmLAN16E2をご使用の場合、Connection Managerが自動的にmLAN接続を設定します。
n8、n12、またはmLAN16E2をご使用の場合は、これで、mLAN ドライバーの初期設定は完了です。



01X、i88X、mLAN16E、またはMY16-mLANをご使用の場合、「mLAN ドライバーの初期設定が完了しました。」というメッセージが表示されます。
[OK]をクリックします。

32 mLAN Auto ConnectorまたはmLAN Graphic PatchbayでmLAN接続を設定します([16ページ](#))。

NOTE

- mLAN Driver/mLAN Toolsがインストールされ、初期設定が行なわれていれば、電源のオン／オフ状態にかかわらずmLAN機器とコンピューターを接続できます。mLAN機器をDAWなどのアプリケーションと使用するには、mLAN ドライバーが有効(オン)になっている([12ページ](#))、コンピューターとmLAN接続されている([9、16ページ](#))必要があります。Connection Managerに対応したmLAN機器をコンピューターと接続すると、Connection Managerが、自動的にmLAN接続を設定します。接続設定中は、ドライバーアイコン([12ページ](#))が点滅します。アイコンが点灯に変わるまで、しばらくお待ちください。
- Connection Managerに対応した機器を初めてコンピューターに接続した場合や、以前に使用されていた機器と異なる機器をコンピューターに接続した場合は、手順**31**のように、接続設定中であることを表す画面が表示されます。
- Connection Managerは、1台のn8、n12またはmLAN16E2をコンピューターにmLAN接続します。Connection Managerが設定したmLAN接続を、mLAN Graphic Patchbayで変更できます。複数の機器を使用する場合は、mLAN Graphic PatchbayでmLAN接続を設定します。
- mLAN Graphic Patchbayについての詳細は、mLAN Graphic Patchbayマニュアルをご参照ください。
- Connection Managerに対応している機種にはmLAN Auto Connectorがありません。

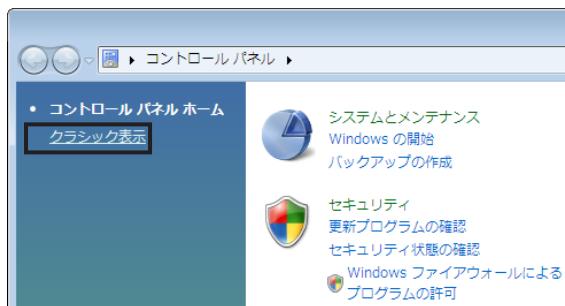
ドライバーアイコンの点滅中は、Connection Managerが、コンピューターに接続されたIEEE1394(mLAN)機器を調査しています。アイコンの点滅中、接続している IEEE1394(mLAN)機器の電源のオン／オフ切り替え、およびIEEE1394(mLAN)ケーブルの抜き差しは絶対に行なわないでください。

■Windows Vistaの場合

インストール前の準備

- mLAN機器の電源が切れているのを確認します。
- mLAN機器のMIDI IN/OUT端子に接続されている MIDI機器の接続ケーブルをすべて外しておきます。
- mLAN機器をコンピューターのIEEE 1394 (FireWire/i.LINK)端子にハブを使わず直接つなぎ、mLAN機器以外のIEEE 1394機器は、コンピューターから外します。
- コンピューターを起動して、管理者権限のあるアカウントでログオンします。

5 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックします。コントロールパネルが次のような表示のときは、画面左上の「クラシック表示」をクリックします。



- 「デバイスマネージャ」アイコンをダブルクリックします。

NOTE

「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行]をクリックします。

- 「1394バスストコントローラ」に「！」や「×」マークがついていないことを確認します。
「！」や「×」マークがついている場合は、IEEE1394(FireWire/i.Link)が使用できない設定になっています。詳細については、お使いのコンピューターの取扱説明書をご参照ください。

8 デバイスマネージャ画面右上の「×」をクリックし、さらにコントロールパネル画面右上の「×」をクリックして、各画面を閉じます。

9 アプリケーションを終了し、使っていないウィンドウをすべて閉じます。

インストーラーの起動

インストーラーは、以下の2つのソフトウェアのインストールを行ないます。

- ・ mLAN Tools 2.0
- ・ mLAN Applications for Yamaha

NOTE

- ・ インストールの中止には、必ずキャンセルボタンやクローズボタンを使用してください。[Ctrl]+[Alt]+[Delete]を使用して中止したり、インストールの途中で電源をオフにしたりすると、アンインストールが正常にできなくなる原因となります。

10 ダウンロードした圧縮ファイルの解凍先にある「setup.exe」をダブルクリックします。

NOTE

- ・ 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、[続行] をクリックします。
- ・ すでにmLAN Driver/mLAN Tools、AI Driver、またはnDriverがインストールされている場合は、メンテナンス画面が表示されます。画面の指示に従って、ソフトウェアの更新(インストールされているソフトウェアの削除と新しいソフトウェアのインストール)を行なってください。ソフトウェアの削除方法については、[24ページ](#)をご参照ください。

11 確認のメッセージが表示されますので、問題なければ[OK]をクリックし、ダイアログを閉じます。

インストールの準備が終わると、「ようこそ」という画面が表示されます。



mLAN Tools 2.0のインストール

12 [次へ]をクリックします。

mLAN Toolsのインストール開始画面が表示されます。

13 [次へ]をクリックします。

「インストール先の選択」画面が表示されます。

14 mLAN Toolsをインストールするドライブとフォルダ名を確認/選択し、決定したら[次へ]をクリックします。

インストール先は自動的に選択されています。インストールするドライブとフォルダ名を変えたい場合は、[参照]をクリックしてインストール先のフォルダーを選択してください(ドライブ: ¥フォルダ名)。

NOTE

- ・ 通常はインストール先を変更する必要はありません。

15 ドライブとフォルダ名を確認して、[次へ]をクリックします。

インストールが開始されます。

16 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。 [完了]をクリックします。

NOTE

- ・ 「Windows セキュリティ」画面が表示された場合は、発行元が「YAMAHA CORPORATION」であることを確認して、[インストール] をクリックします。



mLAN Applications for Yamahaのインストール

mLAN Tools 2.0のインストールが終わると、mLAN Applications for Yamahaのインストール開始画面が表示されます。

17 [次へ]をクリックします。

「インストール先の選択」画面が表示されます。

18 mLAN Application for Yamahaをインストールするドライブとフォルダーネームを決めます。

自動的にインストール先が選択されています。インストールするドライブとフォルダーネームを変えたい場合は、[参照]をクリックしてインストール先のフォルダーを選択してください(ドライブ: ¥フォルダーネーム)。



- 通常はインストール先を変更する必要はありません。

19 ドライブとフォルダーネームを確認して、[次へ]をクリックします。

インストールが開始されます。

20 インストールが完了すると、インストール完了のメッセージが表示されます。

「はい、今すぐコンピューターを再起動します。」の左側のラジオボタンにチェックが入っていることを確認し、[完了]をクリックしてコンピューターを再起動します。



- 「Windows セキュリティ」画面が表示された場合は、発行元が「YAMAHA CORPORATION」であることを確認して、[インストール]をクリックします。

インストールを途中で終了した場合について

インストールを途中で終了した場合、ソフトウェアが不完全な状態で、インストールされている可能性があります。正しくソフトウェアをインストールするには、もう一度手順10からやりなおして、インストールを行なってください。

mLAN ドライバーの初期設定

コンピューターが再起動したら、mLAN ドライバーの初期設定を行ないます。

21 機器の電源を入れるよう求めるダイアログが画面左上に表示されます。mLAN機器をコンピューターに接続して電源を入れます。

22 手順21で画面左上に表示された機器の電源を入れるよう求めるダイアログの[OK]が有効になったらクリックします。

23 画面左上に「ドライバーの初期設定を行ないます」というダイアログが表示されます。[OK]をクリックします。



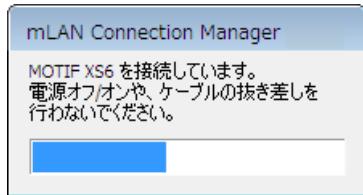
- 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[続行]をクリックします。

24 ドライバーの初期設定が自動的に行なわれます。初期設定が完了するまで、しばらくお待ちください。初期設定中は、画面左上に、進行状況を示すウィンドウが表示されます。



mLAN接続の設定

- 25** mLANドライバーが起動します。n8、n12またはmLAN16E2をご使用の場合、Connection Managerが自動的にmLAN接続を設定します。
n8、n12、またはmLAN16E2をご使用の場合は、これで、mLANドライバーの初期設定は完了です。



01X、i88X、mLAN16E、またはMY16-mLANをご使用の場合、「mLANドライバーの初期設定が完了しました。」というメッセージが表示されます。

[OK]をクリックします。

- 26** mLAN Auto ConnectorまたはmLAN Graphic PatchbayでmLAN接続を設定します(16ページ)。



- mLAN Driver/mLAN Toolsがインストールされ、初期設定が行なわれていれば、電源のオン／オフ状態にかかわらずmLAN機器とコンピューターを接続できます。mLAN機器をDAWなどのアプリケーションと使用するには、mLANドライバーが有効(オン)になっている(右コラム参照)、コンピューターとmLAN接続されている(12、16ページ)必要があります。Connection Managerに対応したmLAN機器をコンピューターと接続すると、Connection Managerが、自動的にmLAN接続を設定します。接続設定中は、ドライバーアイコン(右コラム参照)が点滅します。アイコンが点灯に変わるまで、しばらくお待ちください。
- Connection Managerに対応した機器を初めてコンピューターに接続した場合や、以前に使用されていた機器と異なる機器をコンピューターに接続した場合は、手順 25 のように、接続設定中であることを表す画面が表示されます。
- Connection Managerは、1台のn8、n12またはmLAN16E2をコンピューターにmLAN接続します。
- Connection Managerが設定したmLAN接続を、mLAN Graphic Patchbayで変更できます。複数の機器を使用する場合は、mLAN Graphic PatchbayでmLAN接続を設定します。



ドライバーアイコンの点滅中は、Connection Managerが、コンピューターに接続されたIEEE1394(mLAN)機器を調査しています。アイコンの点滅中、接続している IEEE1394(mLAN)機器の電源のオン／オフ切り替え、および IEEE1394(mLAN)ケーブルの抜き差しは絶対に行なわないでください。

インストール後の確認、設定変更

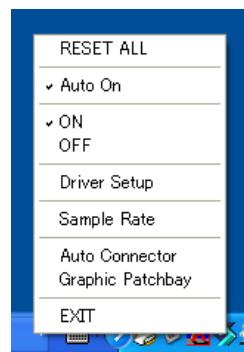
インストール後の確認

タスクバーの通知領域

mLANドライバーのアイコンが追加されます。アイコン(?)を右クリックするとmLAN Managerのメニューが表示されます。



- mLANドライバーが無効(オフ)のとき、アイコンは白色に表示されます。mLANドライバーが有効(オン)のとき、アイコンは青色に表示されます。mLANを使用するには、mLANドライバーを有効(オン)にする必要があります。Connection Managerが、コンピューターに接続されたIEEE1394(mLAN)機器を調査しているときは、アイコンが点滅します。



ドライバーアイコン

RESET ALLすべてのmLAN機器のmLAN接続の設定を初期化します。また、mLANドライバーの設定も初期化されます。



- mLAN Auto ConnectorやmLAN Graphic Patchbayの起動中は、RESET ALLを実行できません。

Auto Onコンピューターを起動したときに、自動的にmLANドライバーを有効(オン)にします。初期設定では、Auto Onがオンになっています。

ONmLANドライバーを有効(オン)にします。

OFFmLANドライバーを無効(オフ)にします。mLAN機器を使用しないときに、コンピューターへの負荷を軽くできます。

Driver SetupDriver Setup (14ページ) を起動します。

Sample Rateサンプリング周波数を設定する画面を開きます(Connection Managerが設定したmLAN接続をご利用の場合のみ)。(13ページ)

Auto ConnectormLAN Auto Connectorを起動します(16ページ)。

Graphic PatchbaymLAN Graphic Patchbayを起動します。詳細は、mLAN Graphic Patchbay マニュアルをご参照ください。

EXITmLAN ドライバーを無効(オフ)にし、タスクバーからmLAN ドライバーのアイコンを削除します。アイコンを再度表示させるには、[スタート]→[(すべての)プログラム]→[スタートアップ]から [mLAN Manager]を選択します。Auto Onがオンに設定されている場合、自動的にmLAN ドライバーも有効(オン)になります。

NOTE

- mLAN ドライバーは、Auto Onがオンに初期設定されています。コンピューターを起動すると、自動的にmLAN ドライバーが有効(オン)になります。
- Driver Setupを使って、データの送受信が正常に行なわれているかを確認することができます。

デバイスマネージャ

■ Windows XP の場合

- [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択します。
- [システム]アイコンをダブルクリックして、「システムのプロパティ」を表示させます。
- [ハードウェア]のタブを選び[デバイスマネージャ]をクリックします。
- 「サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ」の左側の[+]マークをクリックし、ご使用になるmLAN機器、および「Yamaha mLnBus」が表示されていることを確認します。



■ Windows Vista の場合

- [スタート]メニューから[コントロールパネル]を選択します。
- 「デバイスマネージャ」アイコンをダブルクリックします。

NOTE

- 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、「続行」をクリックします。
- 「サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラ」の左側の[+]マークをクリックし、ご使用になるmLAN機器、および「Yamaha mLnBus」が表示されていることを確認します。



NOTE

- ご使用になるmLAN機器は、次のように表示されます。

mLAN機器	表示名
01X	YAMAHA 01X-mLAN または Yamaha 01X-mLAN
i88X	YAMAHA i88X または Yamaha i88X
mLAN16E	YAMAHA mLAN16Eまたは Yamaha mLAN16E
mLAN16E2	Yamaha mLAN16E2
MY16-mLAN	YAMAHA MY16-mLANまたは Yamaha MY16-mLAN
n8/n12	Yamaha n series

インストール後の設定変更

NOTE

- mLAN ドライバーをアプリケーション(DAWなど)で使用中の場合、Sample Rate、Driver Setupの設定変更ができません。アプリケーションを終了してから設定変更を行なってください。「変更できません」というエラーメッセージが表示される場合は、[21 ページ](#)をご参照ください。

Sample Rate

(タスクバーのドライバーアイコンを右クリック→Sample Rate)

Connection Managerが設定したmLAN接続をご使用の場合、この画面でサンプリング周波数を設定します。



ダイアログ内の「サンプリング周波数」の右側の矢印をクリックして、サンプリング周波数を選択します。[OK]をクリックすると設定が反映され、ダイアログが閉じます。[適用]をクリックすると、ダイアログを開いたまま、設定が反映されます。サンプリング周波数の変更中は、変更中であることを示す画面が表示されます。

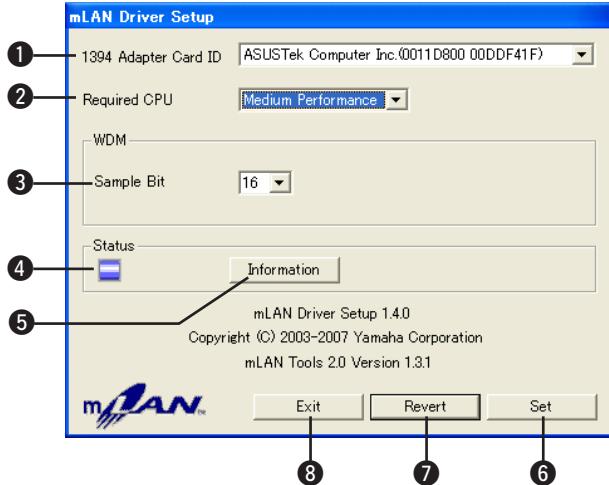
NOTE

- n8/n12をご使用の場合、サンプリング周波数の変更中は、n8/n12の[COMP]LEDが点滅します。詳しくは、n8/n12取扱説明書をご参照ください。

Driver Setup

(タスクバーのドライバーアイコンを右クリック→Driver Setup)

mLAN機器との通信の設定や送受信の確認をするための画面です。



① 1394 Adapter Card ID

コンピューターに装着されている IEEE1394(FireWire/i.LINK)インターフェースのIDが表示されます。インターフェースが複数装着されている場合には、mLAN機器を接続するインターフェースを選択します。mLANドライバーが認識していないインターフェースは表示されません。



- お使いのインターフェースによっては、正しいベンダー(メーカー)名が表示されないことがあります。
- インターフェースが複数装着されている場合は、mLANドライバーの初期設定(Windows XPの場合は[8ページ](#)、Windows Vistaの場合は[11ページ](#))を行なったときに、mLAN機器を接続したインターフェースが選択されています。mLAN機器を接続するインターフェースを変更するときは、Driver Setupの1394Adaptor Card IDを設定した後に、IEEE1394(mLAN)ケーブルを挿しなおしてください。その後mLAN Driverを無効(オフ)にし、再度mLAN Driverを有効(オン)にしてください。mLAN Driverの有効/無効は、ドライバーアイコンを右クリックしてON/OFFを選択します。

② Required CPU

必要とするコンピューターの処理能力(mLANドライバーがコンピューターにかける負荷の量)を設定します。コンピューターにかける負荷の量は、「ASIOコントロールパネル」のレインテーでも調整できます(次ページ参照)。

③ WDM Sample Bit

WDMドライバーのオーディオデータのビット数を選択します。

④ Status

mLAN機器からコンピューターへの送信データ(オーディオ/MIDI)の状態を表示します。エラー発生時には、メッセージが表示されます。

- 青正常に受信している状態です。
黄オーディオかMIDIの一方だけ受信している状態です。
赤エラーが起っています。
グレー受信していません。



- DAWなどのアプリケーションがmLANドライバーのオーディオおよびMIDIを使用していない状態では正しく表示されません。
アプリケーションを起動した状態で参照してください。

⑤ Information

クリックすると、mLAN機器からコンピューターへの受信状態を表示するInformation画面(下記参照)が表示されます。

⑥ Set

設定した内容を、実際に有効にするためのボタンです。この画面で変更した設定は、[Set]をクリックするまでには有効になりません。

⑦ Revert

設定した内容を、最後に[Set]をクリックしたときの状態に戻すためのボタンです。一度[Set]をクリックすると、このボタンでそれ以前の状態に戻すことはできません。

⑧ Exit

Driver Setup画面を閉じます。

Information画面

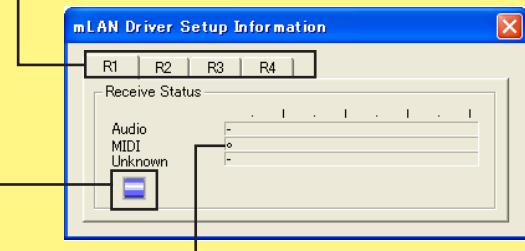
mLAN機器からコンピューターへの受信の状態をオーディオとMIDIに分けて表示します。

アイコン

- 青正常に受信している状態です。
赤エラーが起っています。
グレー受信していません。

R1, R2...

受信の状態を表示します。R1でMIDI、R2でオーディオの状態を確認します。
表示されるタブの数は、お使いのコンピューターによって異なります。



Receive Status

受信されているデータを示す記号が表示されます。「○」はそのデータが受信されていることを示します。たとえば、「Audio」欄で「oooooooooo-」と表示された場合は、受信されているデータは全部で9個で、そのうちの最初の8つがオーディオデータであることを示しています。未知のデータが存在する場合には、「Unknown」欄に表示されます。

データが何も受信されていないときには、これらの欄は空白となります。
受信時にエラーが発生した場合は、メッセージが赤色で表示され、点滅します。
mLAN機器の状態をご確認ください。

レイテンシーとRequired CPUの関係について

お使いのコンピューターの性能(CPUの速度やメモリーのサイズ)により、DAWなどのアプリケーションを使用する際に、ノイズが発生するなど、オーディオデータを正しく録音/再生できない場合があります。一般的にこのような場合、レイテンシー(遅延時間)を調節することで、問題を解決できます(下記「レイテンシー」参照)。

ただし、コンピューターの性能や使用状況(ほかのアプリケーションを同時に使用したり、mLAN機器を複数接続している場合など)によっては、レイテンシーを大きくしてもノイズや音切れが起こる場合があります。その場合は、「Required CPU」でコンピューターにかける負荷の量を減らして(「Medium Performance」や「Low Performance」に設定して)から、再度レイテンシー(右コラム「Preferred Buffer Size」)を調節してください。

- ・ **レイテンシーの値が小さい:**
遅延時間が短く、リアルタイムプレイに適しています
- ・ **レイテンシーの値が大きい:**
遅延時間が長くなる分、プラグインエフェクトや扱うオーディオチャンネル数を多くできます(コンピューターにかかる瞬間的な負荷を軽減できます)

また、逆に、レイテンシー(右コラム「Preferred Buffer Size」)を最小にしてもノイズや音切れが起きない場合には、「Required CPU」を「High Performance」などに設定してから再度レイテンシーを調整することで、全体的なレイテンシー値を最小にすることができます。

● レイテンシー

オーディオのレイテンシー

オーディオのレイテンシーは、「ASIOコントロールパネル」で選択する「Preferred Buffer Size」で決まります。レイテンシーの値も、「ASIOコントロールパネル」に表示されます(右コラム参照)。

MIDIのレイテンシー

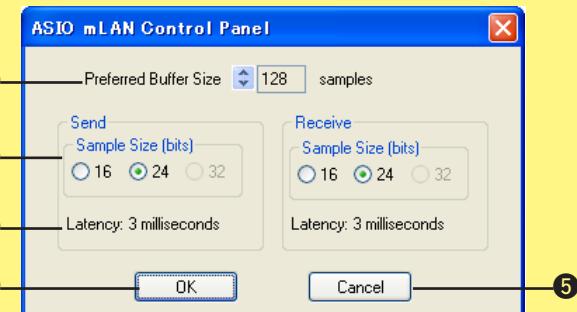
MIDIレイテンシーについては、「releasenotes_j.pdf」をご参照ください。

● ASIOコントロールパネル

ASIOドライバーの場合、必要に応じて、アプリケーションのドライバー設定(お使いのDAWによってメニュー構成が異なります)内でASIOコントロールパネルを開いて、「Preferred Buffer Size」を設定します。ASIOコントロールパネルを起動すると、以下のダイアログが表示されます。

NOTE

- ・ WDMドライバーの場合も同様に、必要に応じてアプリケーションのドライバー設定内で、ASIOドライバーのレイテンシー値に相当するWDMドライバーのレイテンシー値を調整します。
- ・ ASIOドライバーの「Preferred Buffer Size」の初期設定は、最小値になっています。



① Preferred Buffer Size

ASIOドライバー内部で使用するバッファーのサイズを指定します。

② Sample Size

オーディオデータの送信/受信のビット数をそれぞれ選択します。

③ Latency

オーディオデータのレイテンシーの値が表示されます。「Preferred Buffer Size」(①)で選択するバッファーサイズで決まります。

④ OK

設定した内容を有効にしてダイアログを閉じます。

⑤ Cancel

設定の変更をせずにダイアログを閉じます。

mLAN Auto Connectorによる設定

ここでは、mLAN Auto Connectorを使って、コンピューターと、01X、i88X、mLAN16E、またはMY16-mLANを1対1でmLAN接続する手順について説明します。

mLAN Auto Connectorを使うと、ワードクロックやオーディオ入出力チャンネル数を選ぶだけで簡単にmLAN接続を設定できます。

コンピューターと複数のmLAN機器を接続する場合は、mLAN Graphic Patchbayを使用します。mLAN Graphic Patchbayについての詳細は、mLAN Graphic Patchbayマニュアルをご参照ください。

- ! 以下の場合に、ノイズが発生することがあります。これらの操作を行なう前に、各機器の出力を下げてください。

- ・コンピューターとmLAN機器の電源をオン/オフする場合
- ・IEEE1394(mLAN)ケーブルを抜き差しする場合
- ・mLAN Auto Connectorを使ってmLAN接続を設定する場合
- ・mLAN Auto Connector またはmLAN Graphic Patchbayでワードクロックマスター/スレーブを変更する場合
- ・mLANドライバーを有効(オン)/無効(オフ)にする場合
- ・OSの起動時/終了時
- ・mLAN Driver/mLAN Tools、n DriverまたはAI Driverのインストール/アンインストール時

NOTE

- ・mLAN Graphic PatchbayでmLAN接続を設定した後にmLAN Auto Connectorを使うと、mLAN Graphic Patchbayでの設定は無効になります。
- ・mLAN Graphic Patchbayでも、コンピューターとmLAN機器を1対1でmLAN接続できます。
- ・mLAN Auto Connector の画面は、接続するmLAN機器によって異なります。

Wordclock Transition Speedの設定 (mLAN Control Panel)

mLAN Auto Connector、またはmLAN Graphic Patchbayの「ノード情報」ウィンドウで[Setup]をクリックすると、mLAN Control Panelが開きます。この画面ではWordclock Transition Speedを設定できます。Wordclock Transition Speed では、01X、i88X、mLAN16E、MY16-mLANがmLANネットワーク上でスレーブになっていて、そのワードクロックが変動する場合、もとの設定から新しい設定に緩やかに移るか、速く移るかを設定できます。

Slow: 通常はSlowを使用します。

Fast: ワードクロックマスターとなる機器が、MTCなどのタイムコードに追従してワードクロックを変化させる設定の場合に使用します。

1 コンピューターとmLAN機器をIEEE1394(mLAN)ケーブルで接続します。

2 タスクバーのドライバーアイコンを右クリックし、[Auto Connector]を選択します。
mLAN Auto Connectorが起動します。

以降の手順はご使用の機器によって異なります。

01Xをお使いの場合→右コラム参照

i88Xをお使いの場合→[18ページ](#)

mLAN16Eをお使いの場合→[19ページ](#)

MY16-mLANをお使いの場合→[20ページ](#)

01Xの場合

mLAN AUTO W.CLKの設定(01X)

3 01XのmLAN AUTO W.CLK(オートワードクロック)を次の手順でENABLE(有効)にして、mLAN Auto ConnectorやmLAN Graphic Patchbayからの設定を受信できる状態にします。01Xでの設定は、mLAN Auto ConnectorやmLAN Graphic PatchbayでのmLAN接続の設定後に行なうこともできます。

01Xの設定

3-1 01Xの[UTILITY]ボタンを押してUTILITYモードに入ります。

3-2 W.CLK (チャンネルノブ3)を押して、mLAN AUTO W.CLK画面を開きます。

UTILITY	mLAN AUTO W.CLK	[INT : 48 kHz]	1/2
ENABLE/DISABLE			
1	1	2	1
3	1	4	1
5	1	6	1
7	1	8	1

3-3 ENABLE(チャンネルノブ1)を押します。

3-4 確認のメッセージ(ENABLE SURE?)が表示されますので、チャンネルノブ8を押して実行します。

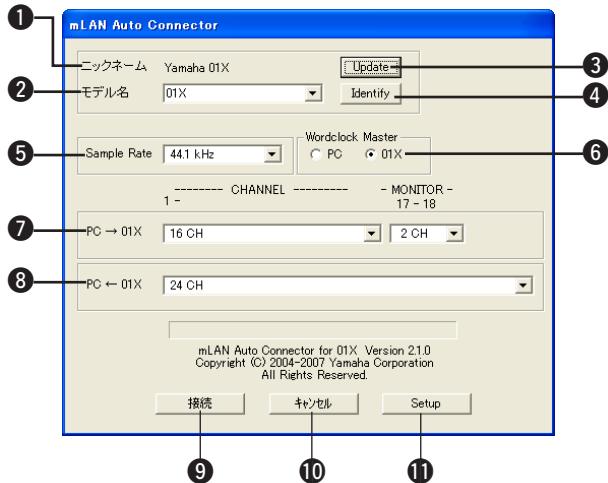
すでにENABLE(有効)になっているときは、確認のメッセージは表示されません。次の手順にお進みください。

NOTE

01Xのユーティリティの設定は、システムバックアップ(01X取扱説明書参照)をしないかぎり、電源を切ると失われます。ここでの設定を次回、電源を入れたときにも有効にするには、[SHIFT]+[UTILITY]でシステムバックアップを実行してください。

mLAN Auto Connectorの設定

- 4 mLAN Auto Connector上でワードクロックの設定やオーディオチャンネル数などの設定を行ないます(下記参照)。**



① ニックネーム

01Xのニックネームを表示します。ニックネームを変更するには、mLAN Graphic Patchbayマニュアルの「ノード情報について」をご参考ください。

② モデル名

複数のmLAN機器とコンピューターを IEEE1394(mLAN)ケーブルで接続している場合、どのmLAN機器をコンピューターとmLAN接続するかを選択します。

③ 「Update」ボタン

mLANネットワークに接続されたmLAN機器の情報を更新します。mLAN Auto Connectorを起動している状態で、新たにmLAN機器を接続した場合などにお使いください。

④ 「Identify」ボタン

このボタンをクリックすると、01X本体のACTIVEランプがしばらく点滅します。

⑤ Sample Rate

サンプリング周波数(ワードクロックの周波数)を選択します。

⑥ Wordclock Master

コンピューターと01Xのどちらかをワードクロックマスターに設定します。

⑦ PC→01X

コンピューターのオーディオ出力(mLANドライバーのオーディオ出力)から01Xに入力するオーディオチャンネル数を設定します。
「MONITOR 17-18」で2chを選択すると、01Xのステレオモニタインプットへの出力を使用できます。
44.1kHz/48kHz時にはASIOの17/18チャンネル(mL17/18)、88.2kHz/96kHz時には9/10チャンネル(mL9/10)が、01Xのステレオモニタインプットに接続されます。

⑧ PC←01X

01Xから、コンピューターに入力するオーディオチャンネル数を設定します。

⑨ 「接続」ボタン

01XとコンピューターをmLAN接続します。接続が完了するとmLAN Auto Connectorの画面は自動的に閉じられます。

⑩ 「キャンセル」ボタン

選択した設定をキャンセルして、mLAN Auto Connectorを閉じます。

⑪ 「Setup」ボタン

01X Control Panel画面が表示されます。この画面で「WordclockTransition Speed」を設定します。

NOTE

- 01Xのモニターに入力した音を聞くには、[MONITOR A/B]ボタンを使用します(01X取扱説明書参照)。
- 01XのAYERが17-24(mLAN)のときに96kHzに設定すると、AYER[1-8]に移動し、チャンネル1が選ばれます。

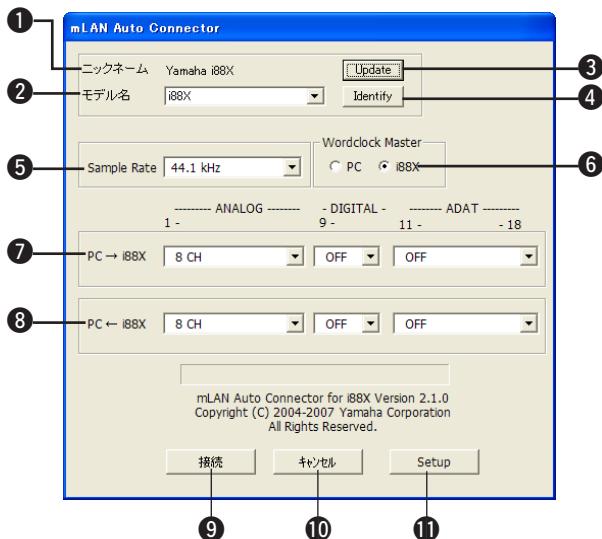
- 5 [接続]をクリックします。正しくmLAN接続されると、mLAN Auto Connectorが終了しmLANによる通信が開始されます。**

NOTE

- 接続がうまくいかなかったときは、タスクバーのドライバーアイコンを右クリックしてmLAN Auto Connectorを再起動し、もう一度「接続」をクリックしてください。コンピューターを再起動する必要はありません。

i88Xの場合

- 3 mLan Auto Connector上でワードクロックの設定やオーディオチャンネル数などの設定を行ないます(下記参照)。



① ニックネーム

i88Xのニックネームを表示します。ニックネームを変更するには、mLAN Graphic Patchbayマニュアルの「ノード情報について」をご参照ください。

② モデル名

複数のmLAN機器とコンピューターを IEEE1394(mLAN)ケーブルで接続している場合、どのmLAN機器をコンピューターとmLAN接続するかを選択します。

③ 「Update」ボタン

mLANネットワークに接続されたmLAN機器の情報を更新します。mLAN Auto Connectorを起動している状態で、新たにmLAN機器を接続した場合などにお使いください。

④ 「Identify」ボタン

このボタンをクリックすると、i88X本体のACTIVEランプがしばらく点滅します。

⑤ Sample Rate

サンプリング周波数(ワードクロックの周波数)を選択します。

⑥ Wordclock Master

コンピューターとi88Xのどちらかをワードクロックマスターに設定します。

⑦ PC→i88X

コンピューターのオーディオ出力(mLANドライバーのオーディオ出力)からi88Xに入力するオーディオチャンネル数を設定します。

i88Xに入力されたオーディオは、それぞれi88X本体のOUTPUT 1~8端子(ANALOG)、DIGITAL STEREO COAXIAL/OPTICAL OUT端子(DIGITAL)、ADAT OUT端子(ADAT)から出力されます。

⑧ PC←i88X

i88Xのオーディオ出力(INPUT 1~8端子(ANALOG)、DIGITAL STEREO COAXIAL/OPTICAL IN端子(DIGITAL)、ADAT IN端子(ADAT))から入力されたオーディオから、コンピューターに入力するオーディオチャンネル数を設定します。

⑨ 「接続」ボタン

i88XとコンピューターをmLAN接続します。接続が完了すると、mLAN Auto Connectorの画面は自動的に閉じられます。

⑩ 「キャンセル」ボタン

選択した設定をキャンセルして、mLAN Auto Connectorを閉じます。

⑪ 「Setup」ボタン

i88X Control Panel画面が表示されます。この画面で「Wordclock Transition Speed」を設定します。

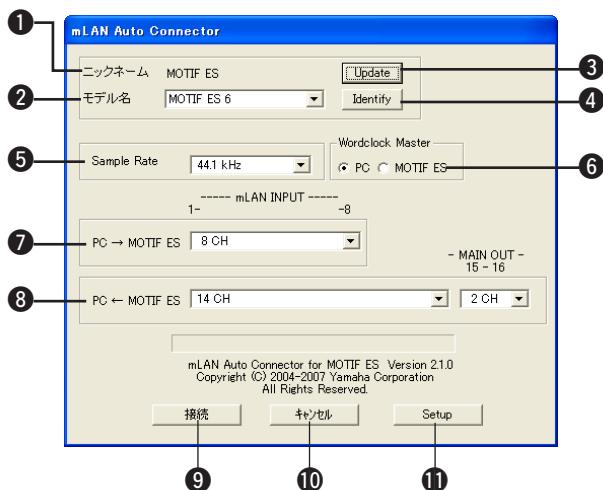
- 4 [接続]をクリックします。正しくmLAN接続されると、mLAN Auto Connectorが終了し、mLANによる通信が開始されます。



接続がうまくいかなかったときは、タスクバーのドライバーアイコンを右クリックしてmLAN Auto Connectorを再起動し、もう一度[接続]をクリックしてください。コンピューターを再起動する必要はありません。

mLAN16E (MOTIF ES / S90 ES)の場合

- 3** mLAN Auto Connector上でワードクロックの設定やオーディオチャンネル数などの設定を行ないます(下記参照)。



① ニックネーム

mLAN16Eのニックネームを表示します。ニックネームを変更するには、mLAN Graphic Patchbayマニュアルの「ノード情報について」をご参照ください。

② モデル名

複数のmLAN機器とコンピューターを IEEE1394(mLAN)ケーブルで接続している場合、どのmLAN機器をコンピューターとmLAN接続するかを選択します。
mLAN16Eの場合、mLAN16Eを取り付けた機器の名前を選択します。

③ 「Update」ボタン

mLANネットワークに接続されたmLAN機器の情報を更新します。mLAN Auto Connectorを起動している状態で、新たにmLAN機器を接続した場合などにお使いください。

④ 「Identify」ボタン

このボタンをクリックすると、mLAN16E本体の ACTIVEランプがしばらく点滅します。

⑤ Sample Rate

サンプリング周波数(ワードクロックの周波数)を選択します。

⑥ Wordclock Master

コンピューターとmLAN16Eのどちらかをワードクロックマスターに設定します。

⑦ PC→MOTIF ES

コンピューターのオーディオ出力(mLANドライバーのオーディオ出力)からmLAN16Eに入力するオーディオチャンネル数を設定します。

⑧ PC←MOTIF ES

mLAN16Eの出力から、コンピューターに入力するオーディオチャンネル数を設定します。

NOTE

- mLAN16E対応機器によって、転送できるオーディオチャンネル、MIDIポート数は異なります。
- MOTIF ES/S90ESにmLAN16Eを取り付けた場合のオーディオ/MIDI接続についての詳細は、mLAN16E取扱説明書の「システム構成例」をご参照ください。

⑨ 「接続」ボタン

mLAN16EとコンピューターをmLAN接続します。接続が完了すると、mLAN Auto Connectorの画面は自動的に閉じられます。

⑩ 「キャンセル」ボタン

選択した設定をキャンセルして、mLAN Auto Connectorを閉じます。

⑪ 「Setup」ボタン

mLAN16E Control Panel画面が表示されます。この画面で「Wordclock Transition Speed」を設定します。

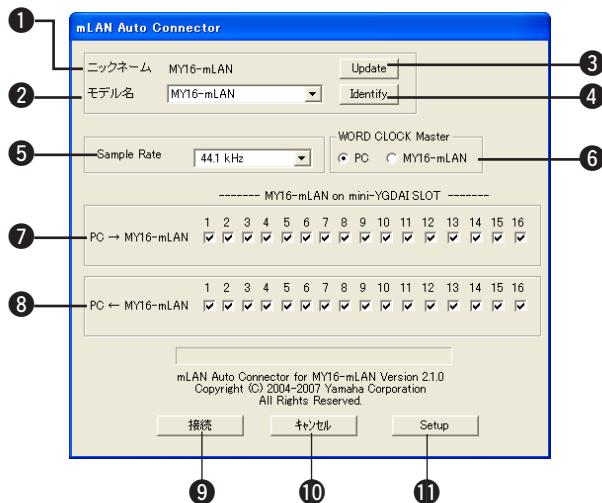
- 4** [接続]をクリックします。正しくmLAN接続されると、mLAN Auto Connectorが終了しmLANによる通信が開始されます。

NOTE

- 接続がうまくいかなかったときは、タスクバーのドライバーアイコンを右クリックしてmLAN Auto Connectorを再起動し、もう一度 [接続] をクリックしてください。コンピューターを再起動する必要はありません。

MY16-mLANの場合

- 3 mLan Auto Connector上でワードクロックの設定やオーディオチャンネル数などの設定を行ないます(下記参照)。**



① ニックネーム

MY16-mLANのニックネームを表示します。ニックネームを変更するには、mLAN Graphic Patchbayマニュアルの「ノード情報について」をご参照ください。

② モデル名

複数のmLAN機器とコンピューターを IEEE1394(mLAN)ケーブルで接続している場合、どのmLAN機器をコンピューターとmLAN接続するかを選択します。

③ 「Update」ボタン

mLANネットワークに接続されたmLAN機器の情報を更新します。mLAN Auto Connectorを起動している状態で、新たにmLAN機器を接続した場合などにお使いください。

④ 「Identify」ボタン

このボタンをクリックすると、MY16-mLAN本体の ACTIVEランプがしばらく点滅します。

⑤ Sample Rate

サンプリング周波数(ワードクロックの周波数)を選択します。

⑥ WORD CLOCK Master

コンピューターとMY16-mLANのどちらかをワードクロックマスターに設定します。

⑦ PC→MY16-mLAN

コンピューターのオーディオ出力(mLANドライバーのオーディオ出力)からMY16-mLANに入力するオーディオチャンネルを設定します。

⑧ PC←MY16-mLAN

MY16-mLANの出力から、コンピューターに入力するオーディオチャンネルを設定します。

⑨ 「接続」ボタン

MY16-mLANとコンピューターをmLAN接続します。接続が完了すると、mLAN Auto Connectorの画面は自動的に閉じられます。

⑩ 「キャンセル」ボタン

選択した設定をキャンセルして、mLAN Auto Connectorを閉じます。

⑪ 「Setup」ボタン

MY16-mLAN Control Panel画面が表示されます。この画面で「Wordclock Transition Speed」を設定します。

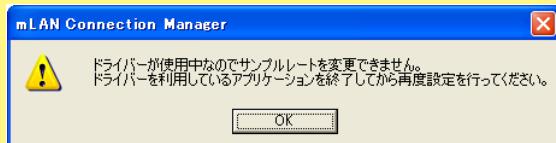
- 4 「接続」をクリックします。正しくmLAN接続されると、mLAN Auto Connectorが終了しmLANによる通信が開始されます。**



接続がうまくいかなかったときは、タスクバーのドライバーアイコンを右クリックしてmLAN Auto Connectorを再起動し、もう一度[接続]をクリックしてください。コンピューターを再起動する必要はありません。

mLANの設定変更ができない、mLAN Driver/mLAN Tools (mLAN Applications for Yamaha/mLAN Tools 2.0) をアンインストール(削除) できない場合の対処

mLANの設定変更時や、アンインストール時に以下のようなメッセージが表示される場合があります。



■mLANの設定変更ができない場合

Sample Rate/Driver Setup/mLAN Auto Connector/mLAN Graphic Patchbayの設定が変更できない場合や、mLAN ドライバーを無効(オフ)にできない/[RESET ALL]に失敗する場合は、以下の操作を行なってください。

mLAN ドライバーをアプリケーション(DAWなど)で使用中の場合

mLANの設定変更ができません。mLAN ドライバーを使用しているアプリケーション全てを終了してから設定変更してください。

WDM ドライバーがWindowsの既定のデバイスに選択されている場合

アプリケーションを起動していない状態でもmLANの設定変更ができないことがあります。

Windowsの既定のデバイスにWDM ドライバー(「mLAN Audio Out」または「mLAN MIDI Out」)を選択している場合は、以下の手順でいったんWDM ドライバーの選択をはずし、コンピューターを再起動してから、mLANの設定変更を行なってください。

Windows XPの場合

- [スタート]→([設定]→)[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[音声]の[音声再生]で「mLAN Audio Out」以外を選択します。
- [スタート]→([設定]→)[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[オーディオ]の[音声再生]で「mLAN Audio Out」以外を選択します。
- [スタート]→([設定]→)[コントロールパネル]→「サウンドとオーディオデバイス」→[オーディオ]の[MIDI音楽の再生]で「mLAN MIDI Out」～「mLAN MIDI Out (16)」以外を選択します。

Windows Vistaの場合

[スタート]→([設定]→)[コントロールパネル]→[サウンド]→[再生]で、「ライン出力 mLAN Audio Out」以外を選択し、[規定値に設定]をクリックします。



- mLAN機器の電源を入れると、自動的にWindowsがWDM ドライバーを既定のデバイスに設定する場合があります。

Windowsのサウンド設定を「サウンドなし」に設定する

以下の設定後、コンピューターを再起動してからmLANの設定変更を行なってください。

Windows XPの場合

[スタート]→([設定]→)[コントロールパネル]→[サウンドとオーディオデバイス]→[サウンド]の[サウンド設定]で「サウンドなし」を選択します。

Windows Vistaの場合

[スタート]→([設定]→)[コントロールパネル]→[サウンド]→[サウンド]の[サウンド設定]で「サウンドなし」を選択します。

■mLAN Driver/mLAN Tools (mLAN Applications for Yamaha/mLAN Tools 2.0) をアンインストール(削除) できない場合

タスクバーのドライバーアイコンを右クリックし、表示されるメニューで[Auto On]を無効(オフ)([12ページ](#))にしたあと、コンピューターを再起動してください。コンピューターが再起動後、再度アンインストールを実行してください。

オーディオデータを扱う場合のヒント

オーディオ機能を十分にお使いいただくために、以下の設定をおすすめします。これらの設定をすることで、再生音が途切れたりノイズが出たりする現象を低減できます。

- ハードディスクのDMAモード（高速に転送するモード）を有効にする

Windows XP の場合

[コントロールパネル]→[システム]→[ハードウェア]→[デバイスマネージャ]→「IDE ATA/ATAPI コントローラ」の「プライマリ IDE チャネル」と「セカンダリ IDE チャネル」をダブルクリックし、[詳細設定]を開きます。「デバイス」の「転送モード」を「DMA(利用可能な場合)」に設定します。

Windows Vista の場合

[コントロールパネル]→[デバイスマネージャ]（→「ユーザー アカウント制御」画面で[続行]）→「IDE ATA/ATAPI コントローラ」の「ATA Channel 0」をダブルクリックし、[詳細設定]を開きます。「デバイスのプロパティ」の「DMAを有効にする」にチェックを入れます。

- プロセッサのスケジュールを「バックグラウンドサービス優先」に設定する

Windows XP の場合

[コントロールパネル]→[システム]→[詳細設定]→「パフォーマンス」で[設定]→[詳細設定]を開き「プロセッサのスケジュール」で「バックグラウンドサービス」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れます。

Windows Vista の場合

[コントロールパネル]→画面左上の[システムの詳細設定]（→「ユーザー アカウント制御」画面で[続行]）→[詳細設定]→「パフォーマンス」で[設定]→[詳細設定]→「プロセッサのスケジュール」で「バックグラウンドサービス」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れます。

- 視覚効果を「パフォーマンスを優先する」に設定する

Windows XP の場合

[コントロールパネル]→[システム]→[詳細設定]→「パフォーマンス」で[設定]→[視覚効果]を開き「パフォーマンスを優先する」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れます。

Windows Vista の場合

[コントロールパネル]→画面左上の[システムの詳細設定]（→「ユーザー アカウント制御」画面で[続行]）→[詳細設定]→「パフォーマンス」で[設定]→[視覚効果]を開き「パフォーマンスを優先する」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れます。

- リモートアシスタンスをオフにする

Windows XP の場合

[コントロールパネル]→[システム]→[リモート]を開き、「リモートアシスタンス」のチェックを外します。

Windows Vista の場合

[コントロールパネル]→[システム]→画面左上の[リモートの設定]（→「ユーザー アカウント制御」画面で[続行]）→[リモート]を開き、「リモートアシスタンス」のチェックを外します。

- クラシックスタートメニューにする

タスクバーを右クリック→[プロパティ]→[スタート]メニューを開き、「クラシック[スタート]メニュー」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れます。

- メニューとヒントのアニメーション化をオフにする

Windows XP の場合

[コントロールパネル]→[画面]（→[デザイン]）→[効果]を開き、[メニューとヒントをアニメーション化する]または[次のアニメーションの効果をメニューとヒントに使用する]のチェックを外します。

Windows Vista の場合

[コントロールパネル]→[コンピュータの簡単操作センター]→「タスクに集中しやすくします」→「時間制限と明滅画像を調整します」の「必要のないアニメーションは無効にします」にチェックを入れます。

- Speed StepTMをオフにする

「トラブルシューティング」（[27ページ](#)）をご参照ください。

本体のバージョンアップ

01X,i88X,mLAN16Eをお使いの方は、本体のバージョンアップが必要な場合があります。

バージョンアップ中は、本体の電源を切ったりIEEE1394(mLAN)ケーブルの抜き差しや別のIEEE1394(mLAN)機器の接続を行なわないでください。

[01Xをお使いの方]

- 01Xのメイン部バージョンアップ
01Xの[UTILITY]キーを押しながら電源を入れると、キーが押されている間、LCDにFIRM OSのバージョンが表示されます。バージョンが1.03より古い場合は、本体メイン部のバージョンアップを行なってください。バージョンアップの詳しい手順については、「UpgradeJ.pdf」(「for_01X_user」フォルダー→「01X_v103_updater」フォルダー内)をご参照ください。
- 01XのmLAN部バージョンアップ
mLAN Graphic Patchbay上のノード情報からバージョンが確認できます。mLAN Graphic Patchbayについては、「mLAN Graphic Patchbayマニュアル」をご参照ください。

バージョン表示の例:

NCPO405-B0-**519**-2004-09-03

太字で表示した部分が「519」より小さい数字の場合は、本体mLAN部のバージョンアップを行なってください。バージョンアップの詳しい手順については、「user_guide_j.htm」(「for_01X_user」フォルダー→「mLAN_updater」フォルダー内)をご参照ください。

[i88Xをお使いの方]

- i88XのmLAN部バージョンアップ
mLAN Graphic Patchbay上のノード情報からバージョンが確認できます。mLAN Graphic Patchbayについては、「mLAN Graphic Patchbayマニュアル」をご参照ください。

バージョン表示の例:

NCPO405-B0-**519**-2004-09-03

太字で表示した部分が「519」より小さい数字の場合は、本体mLAN部のバージョンアップを行なってください。バージョンアップの詳しい手順については、「user_guide_j.htm」(「for_i88X_user」フォルダー→「mLAN_updater」フォルダー内)をご参照ください。

[mLAN16Eをお使いの方]

- mLAN16EのmLAN部バージョンアップ
mLAN Graphic Patchbay上のノード情報からバージョンが確認できます。mLAN Graphic Patchbayについては、「mLAN Graphic Patchbayマニュアル」をご参照ください。

バージョン表示の例:

NCPO405-B0-**519**-2004-09-03

太字で表示した部分が「519」より小さい数字の場合は、本体mLAN部のバージョンアップを行なってください。バージョンアップの詳しい手順については、「user_guide_j.htm」(「for_mLAN16E_user」フォルダー→「mLAN_updater」フォルダー内)をご参照ください。

ソフトウェアのアンインストール

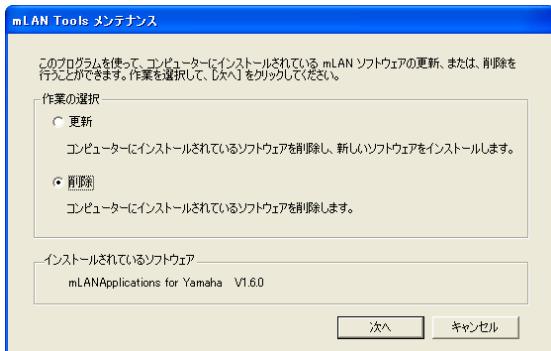
mLAN Driver/mLAN Toolsをアンインストールするには、以下の2つのソフトウェアの削除が必要です。

- mLAN Applications for Yamaha
- mLAN Tools 2.0

次の方法でインストールしたソフトウェアを削除できます。

1 ダウンロードした圧縮ファイルの解凍先にある「setup.exe」をダブルクリックします。

メンテナンス画面が表示されます。



NOTE

- Windows Vistaをお使いの場合は、「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたら、「続行」をクリックします。その後、メンテナンス画面が表示されます。
- mLAN Driver/mLAN Toolsがインストールされていない場合は、mLAN Driver/mLAN Toolsのインストーラーが起動します。

2 「削除」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ]をクリックします。

3 「mLANApplications for Yamahaを削除します」という画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

4 「ようこそ」という画面が表示されたら、「削除」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ]をクリックします。



5 ファイル削除の確認画面が表示されたら、[OK]をクリックします。

メンテナンスが開始されます。

6 メンテナンス完了画面が表示されたら、[完了]をクリックします。

7 「mLAN Tools 2.0を削除します」という画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

8 ファイル削除の確認画面が表示されたら、[OK]をクリックします。

メンテナンスが開始されます。

9 メンテナンス完了画面が表示されたら、[完了]をクリックします。

10 「ソフトウェアの削除が完了しました」という画面が表示されたら、[OK]をクリックします。

これで、mLAN Driver/mLAN Toolsのアンインストールは完了です。



NOTE

Windowsのコントロールパネルの「プログラムの追加と削除」／「プログラムと機能」を使ってアンインストールすることもできます。

以下の手順で、次の2つのプログラムを1→2の順に削除します(必ず、1→2の順に削除してください)。

- 1) mLAN Applications for Yamaha
- 2) mLAN Tools 2.0

■ Windows XPの場合

1 [スタート] → ([設定] →) [コントロールパネル] → [プログラムの追加と削除]を選択し、「プログラムの追加と削除」を表示します。

2 左上の「プログラムの変更と削除」をクリックして選び、右側のリストの中から「mLANApplications for Yamaha」を選択します。

3 [変更と削除]をクリックします。

ダイアログが表示されますので、画面の指示に従って削除を実行してください。

4 手順1～3と同じ要領で、リストの中から「mLAN Tools 2.0」を選択し、[変更と削除]をクリックします。ダイアログが表示されますので、画面の指示に従って削除を実行してください。

■ Windows Vistaの場合

1 [スタート] → ([設定] →) [コントロールパネル] → [プログラムと機能]を選択し、「プログラムのアンインストールまたは変更」を表示します。

2 リストの中から「mLANApplications for Yamaha」を選択します。

3 [アンインストールと変更]をクリックします。

「ユーザー アカウント 制御」画面が表示された場合は、「続行」をクリックします。ダイアログが表示されますので、画面の指示に従って削除を実行してください。

4 手順1～3と同じ要領で、リストの中から「mLAN Tools 2.0」を選択し、[アンインストールと変更]をクリックします。

ダイアログが表示されますので、画面の指示に従って削除を実行してください。

ソフトウェアのアップデート

ここでは、すでに古いバージョンのmLAN Driver/mLAN Toolsをお使いの場合に、新しいバージョンにアップデートする方法や、n DriverまたはAI Driverをお使いの場合にmLAN Driver/mLAN Toolsに変更する方法を説明します。はじめてmLAN Driver/mLAN Toolsをインストールする方法は5ページをご参照ください。

mLAN Driver/mLAN Toolsのアップデートは必ず次の手順で行なってください。



① mLAN Driver/mLAN Tools のバージョン確認

次の手順で、現在インストールされているmLAN Driver/mLAN Toolsのバージョンを確認します。

- 1-1 ダウンロードした圧縮ファイルの解凍先の「setup.exe」をダブルクリックします。
メンテナンス画面が表示されます。

NOTE

- Windows Vistaをお使いの場合は、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。その後、メンテナンス画面が表示されます。

- 1-2 画面内の「インストールされてるソフトウェア」を確認します。

インストールされているソフトウェアが、「mLAN Applications for Yamaha」で、バージョンがこれからインストールするmLAN Driver/mLAN Toolsの最新バージョンと同じ場合は、アップデートは不要です。

- 1-3 [キャンセル]をクリックして、メンテナンス画面を閉じます。

NOTE

- mLAN Driver/mLAN Tools、n DriverまたはAI Driverがインストールされていない場合は、「setup.exe」をダブルクリックすると、mLAN Driver/mLAN Toolsのインストーラーが起動します。

② mLAN接続のバックアップ

アップデート後にmLAN接続の再設定が必要になります。
mLAN接続の再設定は、mLAN Auto Connectorで再設定するか、mLAN Graphic Patchbayで設定ファイルを読み込むことで行ないます。

mLAN Graphic Patchbayで設定ファイルを読み込むためには、アップデートする前にmLAN Graphic Patchbayの[ファイル]メニューから、ファイル(*.ymp)またはテンプレートファイル(*.ymt)を保存します。

NOTE

- n DriverまたはAI Driverをお使いの場合、またはConnection Managerが自動設定したmLAN接続をお使いの場合、アップデート後もConnection Managerが自動的にmLAN接続を再設定するので、バックアップをとる必要はありません。

③ 本体のバージョンアップ(01X、i88X、mLAN16Eの場合のみ)

01X、i88X、mLAN16Eをお使いの方は、本体のバージョンアップが必要な場合があります。必要に応じて本体のバージョンアップを行なってください。詳細は[23ページ](#)をご参照ください。

④ インストール前の準備

インストールに必要な設定を行ないます。詳細は[5ページ](#)をご参照ください。

⑤ ソフトウェアのアップデート

次の手順で、古いバージョンのソフトウェアのアンインストールと、新しいバージョンのソフトウェアのインストールを行ないます。

5-1 ダウンロードした圧縮ファイルの解凍先にある「setup.exe」をダブルクリックします。
メンテナンス画面が表示されます。

- NOTE**
- Windows Vistaをお使いの場合は、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[続行] をクリックします。その後、メンテナンス画面が表示されます。

5-2 画面内の「更新」の左側にあるラジオボタンにチェックを入れて、[次へ]をクリックします。

5-3 画面の指示に従って、古いバージョンのソフトウェアのアンインストールを行なったあと、新しいバージョンのソフトウェアをインストールします。

詳細は「ソフトウェアのアンインストール」([24ページ](#))、および「ソフトウェアのインストール」([5ページ](#))をご参照ください。n DriverまたはAI Driverのアンインストールも「ソフトウェアのアンインストール」と同様の手順です。

⑥ mLAN接続の再設定

mLAN Auto Connectorで再設定するか、mLAN Graphic Patchbayの[ファイル]メニューから、②で保存したファイルを読み込みます。



- Connection Managerに対応した機器をお使いの場合は、Connection Managerが自動的にmLAN接続を再設定します。

トラブルシューティング(困ったときは…)

■ エラーメッセージが表示された場合

- ・「mLAN Manager のメニューから「ON」を選択してください」、「mLAN Start を実行（起動）してください」、「mLAN を起動してください」というメッセージが表示された場合は、タスクバーのドライバーアイコンを右クリックして [ON] を選択し([12 ページ](#))、mLAN を有効（オン）にしてください。
- ・「mLAN Stop を実行してください」というエラーメッセージが表示された場合は、タスクバーのドライバーアイコンを右クリックして [OFF] を選択し([12 ページ](#))、mLAN を無効（オフ）にしてください。
- ・その他エラーメッセージが表示されたときは、画面の指示に従ってください。

■ 音が出ない / 音が小さい

コンピューターの設定、mLAN 機器の接続

- ・アプリケーションの音量設定は上がっていますか？
- ・mLAN ドライバーが有効（オン）になっていますか？（ドライバーアイコンが青色に表示されていますか？）
- タスクバーのドライバーアイコンを右クリックして [ON] を選択してください。

[「インストール後の確認」\(12 ページ\)](#) 参照

- ・その他 mLAN の設定は適切ですか？
[「オーディオ／MIDI データが送受信されない」の項目](#) 参照
- ・ネットワーク上の機器の数が 4 台を超えていませんか？ IEEE1394BUS の帯域をオーバーしている可能性があります。
- ・IEEE1394BUS の帯域をオーバーしていませんか？ mLAN Graphic Patchbay で使用帯域をチェックし、オーバーしている場合は、不要な接続を切断してください。

[mLAN Graphic Patchbay オンラインマニュアルの「メニューバー」](#) 参照

- ・mLAN ネットワーク上に S200 の m LAN 機器がありませんか？
- この場合、IEEE1394BUS の帯域が狭くなり、帯域をオーバーすることがあります。mLAN 機器の接続台数を減らすか、不要な接続を切断してください。

[mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「メニューバー」](#) 参照

mLAN 機器 (mLAN16E/mLAN16E2/MY16-mLAN 取り付け機器)、外部機器の設定

- ・スピーカーやヘッドフォンなどは正しく接続されていますか？
- ・アンプなどの外部機器の電源は入っていますか？
- ・音源や再生機器の音量設定は上がっていますか？
- ・外部機器からの信号は入力されていますか？
- ・mLAN 機器と外部機器との接続ケーブルは断線していませんか？
- ・ワードクロックの設定は mLAN 機器と外部機器の双方で正しいですか？

[「mLAN Auto Connector による設定」\(16 ページ\)](#)、
[mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「ワードクロックの設定」](#) 参照

■ 音が歪む

コンピューター、mLAN 機器 (mLAN16E/mLAN16E2/MY16-mLAN 取り付け機器)、外部機器の設定

- ・オーディオデータは適切なレベルで録音されていますか？
- ・ワードクロックの設定は mLAN 機器と外部機器の双方で正しいですか？

[「mLAN Auto Connector による設定」\(16 ページ\)](#)、
[mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「ワードクロックの設定」](#) 参照

- ・mLAN 機器と外部機器との接続ケーブルは断線していませんか？

■ ノイズが発生する

コンピューターの設定

- ・お使いのコンピューターは推奨環境を満たしていますか？
[「動作環境」\(3 ページ\)](#) 参照
- ・mLAN ドライバーのレイテンシーの設定は適切ですか？
[「Driver Setup」\(14 ページ\)](#)、
[「ASIO コントロールパネル」\(15 ページ\)](#) 参照
- ・サンプリング周波数（ワードクロック）は適切ですか？コンピューターの性能によっては、サンプリング周波数が高いとノイズの原因となります。また、ワードクロックマスターを PC にしてみてください。

[「Sample Rate」\(13 ページ\)](#)、
[「mLAN Auto Connector による設定」\(16 ページ\)](#)、
mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「ワードクロックの設定」参照

- ・オーディオチャンネル数は適切ですか？同時に扱えるオーディオチャンネル数は、コンピューターの性能によって異なります。

[「mLAN Auto Connector による設定」\(16 ページ\)](#)、
mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「mLAN 接続設定」参照

- ・コンピューターで使用している内蔵ハードディスクの速度が遅いと録音／再生に問題が発生する原因となります。
- ・コンピューターのメモリを増やしてみてください。
- ・バックグラウンドで動作しているアプリケーションがありませんか？ mLAN を使用するときは、バックグラウンドで動作するアプリケーションをオフにしてください。オンのまま使用すると、ドライバーの動作が安定せず、ノイズが発生する原因となることがあります。mLAN を使用しないときは、オフにしたアプリケーションを再度オンにしてください。
- ・ネットワークアダプターがノイズの原因になることがあります。その場合は、Windows のデバイスマネージャを使ってネットワークアダプターを無効にすると、ノイズが解消します。

mLAN 機器の接続

- ・IEEE1394(mLAN) ケーブルが破損していませんか？また、IEEE1394 の S400 規格を満たしていないケーブルは、ノイズの原因となることがあります。
- ・ケーブルの近くにインバーターなどのノイズ発生源がありませんか？ノイズ発生源からケーブルを離してください。
- ・コンピューターと接続している機器数は適切ですか？コンピューターの性能によっては、機器が多いとノイズの原因になります。

mLAN 機器 (mLAN16E/mLAN16E2/MY16-mLAN 取り付け機器)、外部機器の設定

- ・ケーブルの近くにインバーターなどのノイズ発生源がありませんか？ノイズ発生源からケーブルを離してください。
- ・ワードクロックの設定は mLAN 機器と外部機器の双方で正しいですか？

[「mLAN Auto Connector による設定」\(16 ページ\)](#)、
mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「ワードクロックの設定」参照

■ ワードクロックが外れたり、mLAN Auto Connector が正常に終了できない

■ ノイズが発生する

コンピューターの設定

- コンピューターをクロックマスターにするとワードクロックが正常に送信されない場合があります。また、mLAN 機器をクロックマスターにするとノイズが発生する場合があります。これらは、CPU のクロックが自動的に変更されることが原因と考えられます。お使いのコンピューターによっては、Intel 社の SpeedStep™ テクノロジーのように、CPU のクロックが自動的に変更されるシステムを搭載している場合があります。お使いのコンピューターの製造会社に、搭載されている電力管理システムをご確認ください。CPU のクロックが自動的に変更されるコンピューターと確認された場合は、CPU のクロックを固定させる設定にしてお使いください。

■ コンピューターの処理が重い

■ コンピューターの CPU メーターに表示される負荷が大きい

■ 演奏がもたつく

■ 録音／再生できるトラック数が少ない

コンピューターの設定

- お使いのコンピューターは推奨環境を満たしていますか？
[「動作環境」\(3 ページ\)](#) 参照
- mLAN ドライバーのレイテンシーの値を大きくしてみてください。

「Driver Setup」(14 ページ)、
「ASIO コントロールパネル」(15 ページ) 参照

- mLAN Auto Connector や mLAN Graphic Patchbay の mLAN オーディオ送受信チャンネル数の設定は適切ですか？ 使用するオーディオチャンネル数を減らしてみてください。

「mLAN Auto Connector による設定」(16 ページ)、
mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「mLAN 接続設定」参照

- mLAN Graphic Patchbay で、コンピューターと接続している機器を減らしてみてください。

mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「mLAN 接続設定」参照

- mLAN を使用しないときは、mLAN ドライバーを無効（オフ）にすると（タスクバーのドライバーアイコンを右クリックして [OFF] を選択）、コンピューターへの負荷を軽くできます。

「インストール後の確認」(12 ページ) 参照

- 「オーディオデータを扱う場合のヒント」(22 ページ) をご参照ください。
- (mLAN Graphic Patchbay) 複数の S200 機器を接続していないませんか？ S200 機器の数によっては、mLAN Graphic Patchbay での mLAN 接続動作に時間がかかる場合があります。

■ オーディオ再生のピッチがおかしい

mLAN 機器 (mLAN16E/mLAN16E2/MY16-mLAN 取り付け機器)、外部機器の設定

- マスターになっている機器が安定した動作をしていますか？
- 同期している外部機器と同一のサンプリング周波数で動作していますか？

「mLAN Auto Connector による設定」(16 ページ)、
mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「ワードクロックの設定」参照

■ DAWなどのアプリケーションから mLAN のドライバー（オーディオ／MIDI）が見えない

コンピューターの設定

- mLAN ドライバーが有効（オン）になっていますか？（ドライバーアイコンが青色に表示されていますか？）
- タスクバーのドライバーアイコンを右クリックして [ON] を選択してください。

「インストール後の確認」(12 ページ) 参照

- その他 mLAN の設定は適切ですか？

「オーディオ／MIDI データが送受信されない」の項目参照

■ 録音デバイスが選択できない

コンピューターの設定

- お使いのアプリケーションは ASIO 対応ですか？ ASIO 対応アプリケーション以外では録音できません。

■ オーディオ／MIDI データが送受信されない

コンピューターの設定

- mLAN Driver/mLAN Tools のインストール／初期設定を行ないましたか？
- mLAN ドライバーが有効（オン）になっていますか？（ドライバーアイコンが青色に表示されていますか？）
- タスクバーのドライバーアイコンを右クリックして [ON] を選択してください。

「インストール後の確認」(12 ページ) 参照

mLAN 接続の設定 (n8/n12/mLAN16E2 をご使用の場合)

- n8/n12/mLAN16E2 をコンピューターに接続したときに、Connection Manager によって、mLAN 接続が、自動的に設定されましたか？（接続中を示す画面が表示されましたか？）(9、12 ページ)

タスクバーのドライバーアイコンを右クリックして [RESET ALL] を選択し、設定を初期状態に戻してください。再度、mLAN 接続が自動的に設定されます。接続中であることを示す画面は、初めて n8/n12/mLAN16E2 をコンピューターに接続したときや、一度他のコンピューターで使用した n8/n12/mLAN16E2 を再度以前使用していたコンピューターに接続したときに表示されます。

- タスクバーのドライバーアイコンを右クリックして [RESET ALL] を選択し、設定を初期状態に戻してみてください。

mLAN 接続の設定 (01X/i88X/mLAN16E/MY-16mLAN をご使用の場合、または mLAN Graphic Patchbay をご使用の場合)

- mLAN 接続は確立していますか？再設定してみてください。

「mLAN Auto Connector による設定」(16 ページ)、
mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「mLAN 接続設定」参照

- コンピューター側の IEEE 1394 インターフェースに制限がある場合があります。同時に使うことができるポート数をご確認ください。

mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「最大接続ノード数」参照

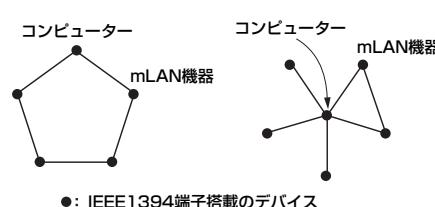
- (mLAN Graphic Patchbay) ワードクロックの設定はしましたか？オーディオの送受信をしているノード間で、1 台がマスター、そのほかのノードがスレーブになっていることを確認してください。

mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「mLAN 接続設定」参照

mLAN 機器の接続

- IEEE1394(mLAN) ケーブルが正しく接続され、mLAN 機器の電源が入っていますか？ IEEE1394(mLAN) ケーブルの接続／電源を確認してください。一度 IEEE1394(mLAN) ケーブルを抜いて、再度挿入してみてください。
- ループ接続になっていませんか。ケーブルの配線をご確認ください。

ループ接続の例



●: IEEE1394端子搭載のデバイス

- mLAN ネットワーク上のコンピューター以外の機器をすべてオフにして、コンピューターと mLAN 機器を 1 対 1 で接続してみてください。
- コンピューターに複数の IEEE1394 インターフェースを装着していませんか？タスクバーのドライバーアイコンを右クリックして [Driver Setup] を選択し、mLAN 機器を接続する IEEE1394 インターフェースを選択します。設定終了後、IEEE1394(mLAN) ケーブルを挿しながら、mLAN Driver を無効（オフ）にし、再度 mLANDriver を有効（オン）にしてください。mLAN Driver の有効／無効は、ドライバーアイコンを右クリックして ON/OFF を選択します

「Driver Setup」(14 ページ) 参照

mLAN 機器 (mLAN16E/mLAN16E2/MY16-mLAN 取り付け機器) の設定

- (01X/i88X/mLAN16E/MY16-mLAN) ACTIVE ランプは正常（青色点灯）ですか？消えている場合は以下の確認をしてください。
mLAN Driver Setup の Status は正常ですか？エラーが起きている場合は mLAN 機器 (mLAN16E/MY16-mLAN 取り付け機器) を再起動し、mLAN Auto Connector/mLAN Graphic Patchbay で mLAN 接続を再設定してください。

「Driver Setup」(14 ページ)、

「mLAN Auto Connector による設定」(16 ページ)、
mLAN Graphic Patchbay マニュアル参照

- 機器を交換していませんか？たとえ同じ機種でも機器自体が異なると、mLAN 接続の再設定が必要です。

「mLAN Auto Connector による設定」(16 ページ)、
mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「mLAN 接続設定」参照

■ MIDI データ／プログラムチェンジが送受信されない

コンピューター、mLAN 機器 (mLAN16E/mLAN16E2 取り付け機器)、外部機器の設定

- アプリケーション (DAW など) で、適切な MIDI ポートを選択していますか？
- 各機器やアプリケーション (DAW など) の送信側と受信側のチャンネルは一致していますか？
- mLAN16E/mLAN16E2 取り付け機器本体の MIDI 設定は適切ですか？

mLAN16E/mLAN16E2 取り付け機器の取扱説明書参照

- 送受信先の機器の電源は入っていますか？

mLAN 機器の接続

- IEEE1394(mLAN) ケーブルは正しく接続されていますか？
- IEEE1394(mLAN) ケーブルは断線していませんか？

■ (mLAN Graphic Patchbay) 接続したはずの mLAN 機器が見えない

- 【表示】メニュー → 【最新情報に更新】で情報を更新してください。

mLAN Graphic Patchbay マニュアルの「メニューバー」参照

■ (mLAN Graphic Patchbay) mLAN Graphic Patchbay を起動するたびに接続が変わる

- S400 未対応の機器がある場合、各機器から送信できるチャンネル数の合計が制限されます。mLAN Graphic Patchbay では mLAN 機器の電源を入れた順に前回の接続を復元します。制限を越えたものは接続されません。
- ネットワーク上にコンピューターを含めて 5 台以上の mLAN 機器がある場合は、各機器から送信できるチャンネル数の合計が制限されます。サンプリング周波数が 44.1kHz/48kHz の場合、最大 86 チャンネルです。

■ (mLAN Graphic Patchbay) mLAN Graphic Patchbay の起動や、「最新情報に更新」に時間がかかる

- S400 未対応機器を mLAN 接続／切断したあとにネットワークの情報を更新する場合、mLAN の転送スピードを変化させる処理が発生するので、通常より時間がかかることがあります。その後の動作に問題はありません。

■ (mLAN Graphic Patchbay) テンプレートファイルを開いたときにエラーメッセージが表示される

- コンピューター や IEEE1394 カードの仕様によって、コンピューターに mLAN 機器が 4 台接続できるものと 2 台接続できるものがあります。4 台接続できる環境において、3 台以上の mLAN 機器を接続した状態で、オーディオや MIDI を接続したテンプレートファイルを作成し、そのテンプレートファイルを 2 台接続できる環境で開くとエラーメッセージが表示されます。このような場合は、コンピューターに接続する機器を減らしてください。
4 台接続できるか 2 台接続できるかは、Driver Setup の Information 画面 (14 ページ) で確認できます。表示されるタブの半分の数がコンピューターに接続できる機器の台数となります。

■ Sample Rate / Driver Setup / mLAN Auto Connector / mLAN Graphic Patchbay の設定が変更できない

■ mLAN ドライバーを無効（オフ）にできない

■ 「RESET ALL」に失敗する

- 「mLAN の設定変更ができない、mLAN Driver/mLAN Tools (mLAN Applications for Yamaha/mLAN Tools 2.0) をアンインストール（削除）できない場合の対処」(21 ページ) をご参照ください。

■ mLAN Driver/mLAN Tools (mLAN Applications for Yamaha / mLAN Tools 2.0) をアンインストールできない

- 「mLAN の設定変更ができない、mLAN Driver/mLAN Tools (mLAN Applications for Yamaha / mLAN Tools 2.0) をアンインストール（削除）できない場合の対処」(21 ページ) をご参照ください。

■ タスクバーのドライバーアイコンが消えてしまった

- 【スタート】→【(すべての) プログラム】→【スタートアップ】または【mLAN Tools】から mLAN Manager を選択します。

■ 他の IEEE1394 機器を正常に使用できない

- mLAN ドライバーを無効（オフ）にしてください。
タスクバーのドライバーアイコンを右クリックして [OFF] を選択してください。

「インストール後の確認」(12 ページ) 参照



- 「音が出ない」「ノイズが発生する」などの問題については、各 mLAN 機器本体の取扱説明書のトラブルシューティング（困ったときは）も併せてご確認ください。